



かぐわしい沈丁花の香りが春の訪れを告げる頃となりました。徐々に寒さが和らぎ過ぎやすくなりますが、季節の変わり目は体調を崩しやすくなります。ご利用者様が規則正しい生活を送りながら元気に過ごしていけるようお手伝いをしていきます。食事や運動、睡眠、内服などなど。気になることがあれば、何でもグリーンのスタッフに相談してくださいね！

グリーンからハッピーニュース発信！
訪問先は、ご本人らしさで溢れています。

趣味や特技、思い出話を通して信頼関係を築いていきたいと考えています。



【吉岡・W様】卒寿祝いにご夫婦で撮った写真。奥様が一学年上のためお二人の卒寿が重なるのは約2ヶ月。その間にお子様写真屋さんを予約しサプライズの撮影会を企画したそうです。幸せいっぱいのラブラブ写真、本当に素敵です！

【前橋・H様】94歳のお誕生日祝いにお孫さんが作ってくれたスクラップ。ご主人、娘さん、お孫さんとの思い出の写真がたくさん！家族の愛で溢れています。

(左)【桐生・M様】ルーティンのお散歩と写真撮影、寒さに負けず頑張っています！「お花とM子シリーズ」今回は黄色の花を咲かせた西洋柊です。毎度、笑顔に癒されます！

(右)【前橋・N様】約4ヶ月の入院を経て在宅復帰されました。長期入院を感じさせない美しさと可愛らしさはご健在！デイの節分レクで作った鬼作品を見せて下さいました。N様おかえりなさい！またよろしくお願ひします。

このページで紹介した方、なんと全員、
御年 over90 歳!!
人生の大先輩。これからは皆さんの歩んできた道についてたくさん聞かせて下さい！



【高崎・T様】骨折入院後、一人暮らしが難しくなり施設入所が決まりました。退院前に一時帰宅された日、ご挨拶に伺いました。束の間の再会でしたが、T様の笑顔を見ることができ安心しました。お決まりのワンピースポーズで記念撮影。約6年間、本当にありがとうございました♡お元気で。

NEW ★ STAFF



2月1日より、入职した作業療法士の中西辰雄です。出身は横浜、この度、川崎市から群馬に移住しました。久々の車移動で緊張していますが、初心者マークをつけ群馬県民の豪快な運転に飲み込まれないよう対策中。愉快で優しいOTです。よろしくお願いします！

※写真の掲載はご本人の許可を得ています。

グリーンは、医療専門職が「家で暮らす。」を応援します。

グリーンには、看護師、リハビリ職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が在籍しています。それぞれの特性を活かしながら、様々な面から在宅生活を支援しています。今回は、看護師とST（言語聴覚士）のお手製グッズをご紹介します。

Ns 作：お薬カレンダー

ST 作：コミュニケーションツール



(左)【前橋・K様】

週1回、看護師が訪問し、内服管理を支援しています。K様は飲んでる薬の種類が多く、市販のお薬カレンダーではポケットがいっぱいになってしまうため手作りしました。段ボールの土台に、クリアファイルを切って作ったポケットが貼り付けてあります。ポケットのマチがこだわりポイント☆出し入れがとてもスムーズです！

治療中の病気を治したり、持病の悪化を防いだりするためには、しっかり薬を服用することが大切です。ただ、種類も飲むタイミングも人それぞれ。看護師と一緒に確認しながら、できるだけご自身で管理ができるようサポートしています。「つい飲み忘れてしまう」「古い薬があまっている」「もらった薬がぐちゃぐちゃ」など、お困りのことがあれば、グリーンナースがお手伝いいたします。

(右)【みどり・S様】

STが週1回、主に言葉のリハビリテーションをサポートしています。発話だけでは意思疎通がとりにくいため、ご本人が持っていたipadを使ったコミュニケーション方法を考えました。

正確に文字入力ができるよう、指先での操作ではなくタッチペンを導入。ペンは握りやすいよう、鉛筆用のグリップをはめました（グリップは100円ショップで購入可）。また操作がしやすいように、タブレットスタンドをつけて角度を調整しました。発話でのコミュニケーション練習と並行しながら頑張っています。

自分の伝えたいことが相手にうまく伝わらないストレスは想像以上です。声を出すこと以外にも手段はたくさんあります。STがスムーズな意思疎通を応援しますので、お気軽にご相談ください。

投稿コラム第22弾(前橋・K様)
退院しました。待望の復帰作!

「走ることについて」

私は信用金庫に50年勤めた。必死に働いた。銀行員と同じくらい必死にやってきたことがある。マラソンである。走ることは、私の生活の一部であった。北海道から沖縄まで、数々の大会に出場した。国内にとどまらず、ハワイ、アラスカ、オーストラリア、ヨーロッパ各国にも行き、各地の道を踏みしめた。若い頃は、勝敗や記録にこだわっていた。誰にでも、野心に燃えた若者時代があるだろう。ご多分に漏れず、私もトンガっていた。

しかし、歳を重ねるにつれ、走り方は少しずつ変化した。勝敗はおまけ程度。それぞれの土地の歴史を感じたり、美しい景色に感動を覚えたりしながら、走る快感を味わった。時には、参加賞としてもらえる名産品目当てで走ったこともある。温泉地の招待券や大きなメロンといった戦利品は、表彰台より眩しく見えた。

そして今、私の足は不自由になり、走ることは難しくなった。しかし、頭の中では、これまで走ったコースをいつでも辿ることができる。風を切って進む気持ち良さを思い出しながら、できる範囲で手足のリハビリを続けていこうと思っている。私なりの走り方で、走っていく。

